





春のやそとをよみて成るに

旅尾

拾やちりく月の影とあふ

燕市

あやふまゝて路の物さす

文地



五月九日 舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

舟中 舟中 舟中

舟中

落葉の 柳や 折佛し 回りまわ

石流

中へ 又りり 露より 砂の 毛を 吹

以形皮

落葉や 露の 朽葉を 踏んで 遠

舟こ

上へ へ ちき の 見て 居る 様は

米居

しきや 淋 回々 短い すー 又 なる

美四

や ちき 枝 へ ちき や ちき の 表

方角

あつや人の境のたぬら

守一

山人のたも縁てありものも肌

意仙

おもしろくして子る空はこゝろ

吾宗

はたその屋うぬ園に蔵の

東圃

拾ふはくくくくを中をり

湖久

ふ吹やまのはくくくぬあ一

芳鏡

明和六巳丑年春三月

信州善光寺

